

佳作

転んでも大丈夫

香川県 高松市立古高松小学校五年 宮脇 友奈

私はお母さんと一緒に本屋に行った時『転んでも大丈夫』を見つけました。私と同年くらいの男子が義足をつけている表紙の写真におどろき、どんなお話なのかとても気になり読むことにしました。

この本は、事故や病気で足を失ってしまった人たちを義肢装具士の白井二美男さんが一人一人に合う義足を作りながら、依頼者の方たちの目標や希望に添えるような様々なことに直面しながらも立ち向かい相談、励まし合いながら一緒に頑張っていくというお話です。私はこの本に出会うまでは義足のことをあまり知りませんでした。義足には大きく分けて生活用とスポーツ用の二種類があり、その中に関節が曲がる義足や妊婦さん用、ミニスカートでおしゃれができる義足まであることにはびっくりしました。装具士は義足の相談を受け、歩行訓練や調整、お医

者さんと相談や患者さんの足型取り、義足の修理や調整したり患者さんと一生付き合う仕事になります。義足は、二、三年でボロボロになるそうです。依頼者との信頼関係がとても大事なお仕事でもあるなと思いました。

私がこの本の中で一番感動した場面は、体を動かすのが大好きだったある女の子が足を切断し、とても辛かったけれど白井さんと出会い義足で今は走り幅とびの選手になり三回もオリンピックに出場するトップアスリートになったという場面です。日本ではスポーツ用の義足の普及がまだまだない中、白井さんは研究を重ね今では競技の種類に合う義足を提案しています。絶望から抜け出せなかった女の子が白井さんと義足の改良を重ね、練習を重ねるまで立ち直ることができたと感じました。白井さんのものには相談者がたくさん来ます。白井さんは様々な義足要望を受けていますが、できせんとは言いません。忙しい中でも時間を作り依頼者が快適に過ごせる義足作りを心がけ日々頑張っておられます。この本のタイトル『転んでも、大丈夫』には白井さんの思いを表わしていると思います。足を失っても困らないぐらいのよりよい義足を作り、

歩けるようにするということだけではなく、足をなくして自信を失った人一人一人の思いにあった義足を作ることです。その人が自分の人生を勇気を持って歩めるようにしたいという白井さんの気持ち、思いがあると感じました。

私は障害のない健常者ですが、これから辛い困難があったとしても、白井さんの義足をつけた人のように力強く生きていきたいし周りの人でそのような人がいれば白井さんのように温かく励ませる人になりたいと思いました。

私の将来の夢は薬剤師です。人の役に立つ仕事ができるくらいいいなと思います。薬の苦手な人に飲みやすい方法を教えたり、体の辛い症状が少しでもやわらぎ治るように、希望を与えてあげるようなことができるよう、私もこれから頑張りたいです。